

学童指導員〈理念とビジョン WS〉 R5.9.14 実施
意見まとめ

基本方針全般

- ・子のために
- ・福祉に関わる人はすべて理念をもってほしい
- ・理念、ビジョンの共有。一人では不可能
- ・教育理念が指導員によって違うので統一する
- ・「生駒市は～」「奈良市は～」ではなく、子どもにとって何が大切なのかを優先する
- ・指針に合った保育をする
- ・人間として生まれたら自分の望むものになれる
- ・社会関係
- ・「子どもの権利条約」はすごく大事
- ・飢餓、戦争、差別のない社会

基本方針1「人」

- ・生活面での安全と子どもたち一人一人の内面的なことでも力になりたい
- ・子どもたちが学童を楽しいと思えること(一日に一つでも楽しいことがある)
- ・子どもが毎日楽しいと思ってもらえる学童
- ・「楽しい学童」と言ってもらえる学童づくり
- ・笑顔あふれる環境
- ・一緒に楽しんで考えていく
- ・楽しいと思える空気感
- ・楽しい
- ・楽しい！！
- ・今日一日楽しかったなあとと思える空間、時間をつくれるように
- ・〇〇楽しかった！で帰りたい。帰ってもらいたい
- ・暴言、ける、たたくなどなくし、仲良く遊ぶ、楽しむ(少々のケンカは可)
- ・毎日が楽しく自ら進んで学童に登所する
- ・子どもがのびのびとできる学童
- ・子どもたちが学童で楽しく過ごす
- ・子どもが楽しく過ごせるように
- ・「自分が一番楽しんでいる」そうやって過ごしたい
- ・子どもたちが将来、この学童でこんなことをして楽しかったと思えるように頑張っていきたい
- ・学童に通って良かった
- ・子ども一人一人の人生の1ページに良い思い出として残るように努めたい
- ・子どもたちの人生の大切な時間を共に過ごす記憶に残ることをしたい
- ・子どもたちの未来に少しでも貢献できる大人でありたい
- ・子どもたちの笑顔を絶やさないこと
- ・子どもたちが笑顔で過ごせる

- ・良い経験も嫌な経験も成長につなげる
- ・成長(他、自とも)
- ・子どもたちが成長するキッカケになりたい
- ・達成感
- ・集団生活のマナーを身につける
- ・感謝と礼儀を大事にすること
- ・あいさつ
- ・状況認識、把握する力を身につけてほしい
- ・決めたこと(ルール、約束)をみんなを守る
- ・当たり前のことを当たり前に行えるようにする
- ・自由ではあるが最低限のルールを守ってもらう
- ・ボーダーラインをしっかり決める
- ・チームとして学習する
- ・集団生活の中で社会性を身につける場として過ごしてもらいたい
- ・異年齢が集まる集団生活の場で学童でできる経験を増やしてほしい
- ・異年齢の遊び、関わり
- ・学童の認知度は高まりつつあり、利用を望む保護者は多くある。そんな保護者の想いに寄り添いながら、子どもたちに欠かせない「食う・寝る(学ぶ)・遊ぶ」を支援し、異年齢集団という特性を活かしながら成長を促し、養い、見守る。
- ・自分が動いて周囲を巻き込んでいく
- ・いろんな人がいて、いろんな考えがあつていいんだということを子どもたちに伝えたい
- ・学童生活の中で、色々な大人や仲間と関係を築いていく中で、悩みや成長につながる経験をしてほしい
- ・相手の立場になって行動する
- ・まわりの状況をよく見て自分以外の人のことを考えての行動、発言をする
- ・相手に寄り添った対応
- ・支援児童があたりまえにられる学童であるように
- ・人の心を大切に(関わる全ての人に)
- ・つなげる、つなぐ(いろんな意味で)
- ・人との接し方
- ・人と人との関わりが大切だと考える
- ・子どもたち自身が自分で考え、自分で決めて、行動できる子、そういう子になってほしい
- ・福祉とは「かわいそうだからやってあげる」ことではなく、「その人がその人らしく生きるためにお手伝いする」のが福祉の仕事
- ・よく考える(一度思考を整理⇒行動)
- ・子・保共に自立する支援
- ・この世の中(地震があつても)どんなことがあつても乗り越える力を身につけてほしい
- ・子どもが自分で困っていること、考えていることを自分の口で言えるようになってほしい
- ・子どもたちの声をきくこと、一緒に学童をつくっていく
- ・子どもの目線に立ち、話をしたい

- ・一人一人個の特性を大事に伸ばす
- ・自分のキャラを受け入れ、地味でよいので、コツコツ関係づくりを積み上げよう
- ・個々の家庭環境を理解し、子どもの成長に関わっていく
- ・子どもたちの話をよく聞いて、一人一人とたくさん話をする
- ・日々の会話を大切にす
- ・1つ1つていねいに
- ・個人をよく観察し、会話を深めていく
- ・コミュニケーションを取る
- ・コミュニケーションをたくさんとる(子ども、大人共に)
- ・笑顔を忘れず、コミュニケーションをきちんととる
- ・コミュニケーション
- ・思いやりのある子に成長できるよう声掛けをする
- ・コミュニケーション能力の向上。子どもたちの話をよく聞く
- ・子どもの対話を多くし、考えていることを聞き出す
- ・会話を大切にす
- ・ゲーム、スマホ過多の世代の子どもたちに人と関わることの大切さ、コミュニケーションの大切さを伝えられればいいなと思うが・・・とても難しい
- ・コミュカ
- ・大人一人一人が長所・短所を自覚して、各々の長所を活かし活動する
- ・毎日子どもたち一人一人の様子に気を配り、心に寄り添う努力をおこたらない
- ・子ども一人一人を見守ること(もれがないように)
- ・子どもたちに寄り添う
- ・寄り添うこと
- ・寄り添いながらも修正できる何かを見つける
- ・家庭によって対応に変化をつける寄り添った対応
- ・子どもとの関わりを深める
- ・できるだけ多くの子どもと接する。変化を見逃さないように気をつける
- ・子どもの行動に目を配る
- ・子どもたちの様子や変化に気付いて関わっていきたい
- ・子どもの変化に気付く
- ・指導ではなく支援する大人として児童に接する
- ・一人一人に寄り添えるように指導員同士、協力やいろいろなことを共有し関わっていきたい
- ・子どもと保護者の育ちを応援する。大人として関わられる
- ・肯定感を高めてあげる
- ・自分自身に自信をもたせ、自分自身を好きになるようにさせることが目標です
- ・自信を持ってほしい
- ・自分のことは自分でできる
- ・生活力を身につけてほしい。ルーティーンもしくは臨機応変さを身につける
- ・やさしさ、愛情を持ち続けたい
- ・愛し、愛される

- ・相手を思いやる心、敬う心
- ・一人一人尊重する
- ・人の気持ちが考えられる人間に
- ・まわりの言動に(変化など)注視する
- ・先入観を持たない
- ・公平な視点で言動を見る
- ・公平
- ・相手が誰であれ、丁寧に大切に
- ・問題の解決、予防
- ・未来に続く
- ・大人になって伝わっていてほしい。大切なことを忘れず思い出してほしい
- ・職業、生き方
- ・継続は力なり
- ・すぐに成果はみられなくても、長い先にあるかもしれない。あればラッキー

基本方針2 「地域」

- ・保護者とのより良い関係性を保つ
- ・保護者が話しやすい環境づくり
- ・保護者が話しやすい場を心掛ける
- ・関係づくり(保護者、子ども、指導員)
- ・信頼関係(子ども、保護者、指導員同士)
- ・子ども、保護者、指導員が何でも話ができる場になるように
- ・子ども、保護者、指導員同士のコミュニケーション、連携
- ・コミュニケーションをとる(子ども、親、指導員)
- ・まわりの大人、指導員、保護者に伝えていく
- ・保護者、子どもと作っていく学童
- ・指導員と子ども・保護者との関係構築
- ・保護者と一緒に悩んで、一緒に考える
- ・子どもや周りの人の意見を聞いて改善していく
- ・より良い信頼関係を築いていく
- ・信頼関係
- ・信頼関係

基本方針3 「環境」

- ・職場において自分がいることで安心してもらえるようになりたい
- ・一人の大人として子どもがしんどい時に「助けて」と言ってもらえる大人でありたい。自分の行動のものはすべてそれ。
- ・モデルとしての大人を見せる
- ・指導員として、1つの指標あるいは反面教師にあえてなる
- ・子どもの利益を柱とした大人の動き方

- ・日々の努力の積みかさね
- ・子どもたちが一緒にいて安心してもらえる存在でありたい
- ・子どもの気持ちに寄り添える指導員でありたい
- ・子どもたちの大切な時間を一緒に過ごさせてもらっている
- ・もちろん我が子ではないけれど関わった子どもたちは我が子のように接する、過ごす
- ・家庭に限りなく近い場所が学童である
- ・学校から家庭にまっすぐ帰れない子どもたちの大切な居場所であり続けたい
- ・適正な人数保育であれば、第二の家庭として関わる
- ・子どものリラックスできる居場所(自分なりの過ごし方を見つける)
- ・学童が子ども一人一人にとって、安心できる居場所である(心のバランスが取れる場所)を目指したい
- ・子どもも大人も居心地の良い場所になるように努める
- ・指導員間のコミュニケーションを大切に、居心地のよい職場づくり
- ・居心地のいい居場所づくり
- ・居心地のいい場所にすること
- ・居場所づくり
- ・子どもが居場所と思えるように
- ・子どもたちが居場所と思える場所、落ち着く場
- ・子どもの過ごしやすい環境づくり
- ・子ども、保護者、指導員が居心地のいい学童に
- ・学童にかかわった人(指導員、子ども、保護者)が居心地のいい場所になれるようにする。
- ・立場はそれぞれちがうが、それぞれが気持ちよくすごせるように
- ・楽しい場所、行きたい場所と思える学童
- ・安心した環境の中でしか楽しいという気持ちは生まれないので、一人一人が居場所になる場所や仲間、大人と出会ってほしい。
- ・この仕事の良さをこれからもっと知ってこの仕事を長く続けたい
- ・学童の仕事にやりがいを感じているように、思いつづけるように
- ・安心、安全が第一
- ・安心安全な環境
- ・安全、安心な学童づくり
- ・子どもが安心・安全に過ごせるような居場所づくりをすること
- ・安全に健康に過ごせる
- ・子どもたちが安心して楽しく過ごす
- ・子どもが安心して過ごせるように
- ・ゆったりできる
- ・安心して預けられる場所づくり
- ・働いている保護者が安心して子どもを預けることができるように
- ・保護者にとって安心して仕事ができ、安心して預けられる場所
- ・保護者が安心できる学童
- ・本当に学童が必要な保護者のための場所

- ・保護者にとってもアットホームな場所、雰囲気
- ・なるべく自然体ですごせる空間にしたい
- ・自然
- ・学童保育の本質的な質の向上
- ・質＝保育の質、労働条件の質、職場環境の質
- ・充実した職場環境
- ・保護者の一助となる安心、安全の学童であり続けること
- ・子どもたちがケガをしないで安全に過ごす
- ・大きなケガがないように安全に過ごせる場所
- ・子どもの安全第一
- ・子どもの安全
- ・子どもたちが安全にケガなく安心して過ごせる空間をつくりあげる
- ・けがをしない、させない
- ・望むことにできる自由な空間、関係づくり
- ・子どもたちが自分の力で問題解決できる環境
- ・現在の活動内容を維持し、子どもたちと楽しい学童をつくっていききたい
- ・職員のスキルアップをし、底上げをはかる
- ・働きやすい環境づくり
- ・学童を働きやすい職場にしていく
- ・職員同士気持ちよく仕事ができるように
- ・子どもが自分を出せる場所になるように指導員の仕事バランスと心の余裕を正常に保ちたい
- ・風通しの良い環境
- ・学童巡回(保育に入る)現状を知ること
- ・自分も働きやすくなるように周りとの協力し、笑顔で過ごす
- ・指導員の力の差があり、保育以外に仕事がありすぎだから保育に専念する
- ・保育以外の業務をなるべく少なく、指導員が保育に専念できるような環境づくり
- ・私たちが働きやすい環境
- ・指導員の気持ちに寄り添いたい
- ・しがらみのない学童保育
- ・施設内を整える

伝える 難しい 長い 楽しい 気持ちよい
 少ない 空間 ほしい いく 成長 大切 多い 場所 行動 すごい
 変化する 一緒 安心 関わる 接する 同士 居心地 質 楽しむ
 相手 預ける 安心 心 居場所 笑顔
 決める 集団生活 話しやすい づくり 働きやすい 理念 支援
 つける できる 一人一人 安全 寄り添う 大人 考える
 気持ち 経験 信頼関係 コミュニケーション 福祉 持つ
 もらう 近い 関係 家庭 環境 人らしい
 しんどい よい 望む とる 聞く もらえる